

令和4年度地域包括支援センター
イチオシ活動



西山手高齢者生活支援センター

コロナフレイルを克服する取組

奥池地域の特徴・問題

高齢化率
40% ↑

参加する場から
遠い

住民活動
休止



奥池地域の中に社会参加の場を作り
フレイル予防を実現する

地域で活躍するサイクルづくりへ



【包括が考えていたゴール】

- 地域活動の担い手など新たな協力者を発掘する
- 活動をきっかけとした地域の活性化
- 健康な男性の無関心層が社会参加して活動できる

奥池プロジェクトの流れ

～気づきの場から、学びの場そして、活躍の場へ～

顔合わせ
から動機付け

メルカリ部（高齢者中心で性別問わず募集）
お試し講座 8.23
今後の為の片づけ講座



自主的な活動
への移行意識

入門編 9.15～10.27
メルカリの活用や利用について学ぶ



地域での
活動へ

実践編 11.10～12.8
手段として活用して活動の幅を広げる



発展編 12.22～
活動周知と新規部員の発掘
地域に根差した活動へ

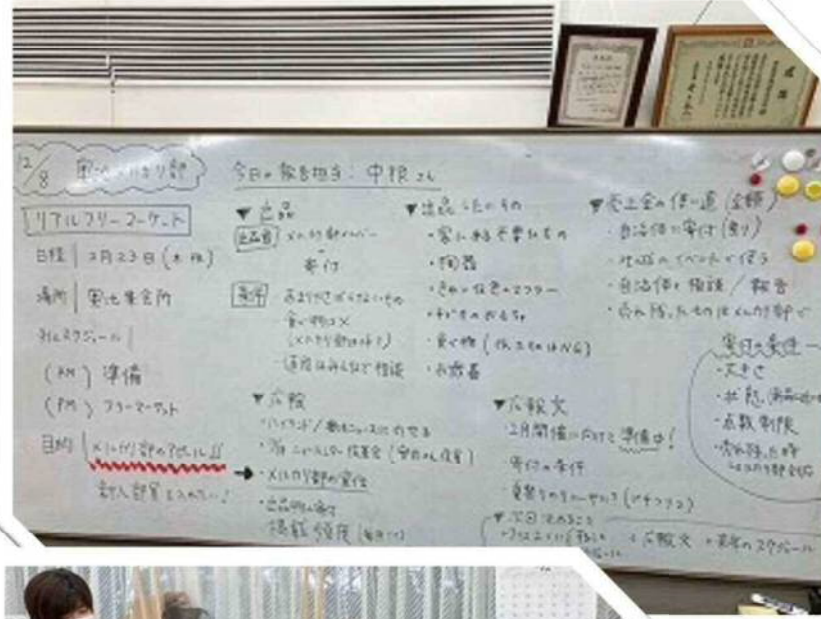
新たな活躍
の場へ

男性の部
(男性に限定して
より参加しやすい形で)

11.29
男本気のスマホ教室

「奥池フリーマーケット」 2.23 実施予定

活動中の様子



プロジェクトの振り返りと今後



◆今回のプロジェクトの振り返り

- ・ニーズの発掘の際に、自治会や既に活動されている方の声から地域のリーダーへ繋がった。
- ・「地域で活躍」といった意識付けを常に行う事で、皆が共通認識で向かう事が出来た。

奥池の立地条件を活かした形
高齢者でもできる且つ発展性の有る活動へ

手段としてメルカリを利用して、メンバーからの発信で地域貢献また地域の活動として、自治会等の地域にも受け入れやすかった。



◆今回のプロジェクトの今後

・住民主体の活動へ

既にフリマをきっかけに広報や自治会等への連絡・繋がりは出来ており、これらは継続し、地域の活動へ発展していく。

・奥池から他の地域へ発信

自分たちの活動を他へも発信して頂けたら・・・

→課題として

男の本気のスマホ教室と題して、地域活動に参加されない、地域でも繋がりのあまり無い男性に対しては、試行錯誤されながらアプローチしていたが、上手くいかなかった。継続の課題として引き続き取り組んでいきたい。





東山手高齢者生活支援センター

令和4年度 イチオシ活動

～世代・分野を超えた共生型カフェへのリニューアル～



【背景】

- ・認知症カフェとしてスタートしたが、開催が不定期で定着しきれなかった
- ・月1回の開催では地域住民への周知も難しい！
- ・イベントがあるから来るではなく、ふらっと集う場(居場所)を作りたい

【目指すべき方向】

- ・イベントがあるから来るのではなく、ふらっと集う場(居場所)を作りたい
- ・集う人も場を作る人も住民が主体的に活動できるカフェにしたい！
- ・地域で活動している方々の多様な場づくりのためのプラットフォーム化

【取り組み内容と現在の進捗状況】

- ・令和4年5月14日(土)から毎週開催中！
- ・ひとり役ワーカーさん、学生ボランティアさんの力をお借りして、内容もその日の気分次第！地域でコミュニティ保健室を開催しているグループの「アットマンズキッチン」とコラボ！デザートカフェも開催。
- ・認知症のある方もない方も、19歳から99歳までの多世代が集う不思議な空間。常連さんグループもでき開催時参加者0名の時はない。

【課題】

- ・なにかをしてほしい人への対応
- ・運営を活動者にお任せしたいが、少し荷が重い
- ・圏域内での「認知症カフェ」イメージからの脱却
- ・運営費用の捻出と管理方法



令和4年度 イチオシ活動 振り返り

～世代・分野を超えた共生型カフェへのリニューアル～

ふらっと集う場(居場所)

毎週やっているのので、いつでも来たら誰かいる。家だと一人で何もしないので、誰かとしゃべってたら楽しい！

何もしないでおしゃべりだけでもいい

何がしたいというわけではない。坊主めくりすることもあるし、しゃべっているだけのこともある。若い人がいるだけでもいい。ここに来たら何かある！

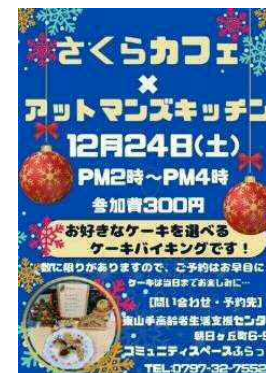


誰でも参加できるカフェ

「介護や認知症のことを相談できるカフェ」から「気軽に相談できちゃうカフェ」に。認知症があってもなくても、介護していてもしてなくても誰でも参加できる。老若男女が楽しく過ごせる場。

様々なグループが主体的に活動できる

1月からはナルク芦屋さんも参加。学生さん、ひとり一役さん、アットマーズさんなどたくさんのボランティアが運営に参画している。最初は何をしたら良いか分からなかったけど、チラシを作ったり、自分でやることを考えてきたり、皆さんに楽しんで頂けて嬉しい！



東山手高齢者生活支援センター





精道高齢者生活支援センター

地域の小集団への介護予防啓発と自主グループ創設へ

【背景】

福祉センターのみでの「さわやか教室」開催であった
精道圏域の利用者が少なく、自主グループ創設に繋がりにくい



【取り組み内容と進捗状況】① 自主グループ創設



『縁』の開催（4月から月2回）
固定参加者に加え毎回メンバー増
ボランティア増



【取り組み内容と進捗状況】② 出張講座（啓発活動）

春日町のマンションで開催（7月から2回実施）
『縁』の立ち上げのプロセスで開催に繋がった
他に4ヶ所のマンションでの出張講座の呼びかけ
中



目指す姿

地域住民の介護予防
の意識が高まり、自
主的な活動に育つ

得られた事

「さらに人と繋が
りたい」という声
横の繋がりを広げ
きっかけになっている

課題

マンションの集会所
利用の制約やルール
主催する側の力量・
協力者の問題



地域の小集団への介護予防啓発と自主グループ創設へ



① 自主グループの創設

『縁』

- ・4月から2回/月 定期開催継続（内：30分間体操）
- ・自主グループの体操はボランティア等によりサポート体制が整った

しかし…

その他の「リーダーとイベントの企画」「イベント講師との打ち合わせの同席」「当日の会場設営・受付」「進行の手伝い」等は包括職員がお手伝いすることに

包括のサポートありきの自主グループに…



『縁』のリーダーと話し合い 

話し合いの結果…

- ・リーダーの役割の簡素化
- ・包括の関わりR5.3月末まで



② 出張講座（啓発活動）

『実施状況・今後の予定』

- 11月13日 高齢者の集い（打出地区委員会）
- 11月18日 平田町出張講座
- 12月 2日 LSA

※4ヶ所のマンションの呼びかけでは2つのマンションが調整待ち



今後の課題

- ・場所の問題
- ・リーダーシップのとれる若手の人材不足
- ・リーダーの力量と協力者の問題
- ・包括の関わり方

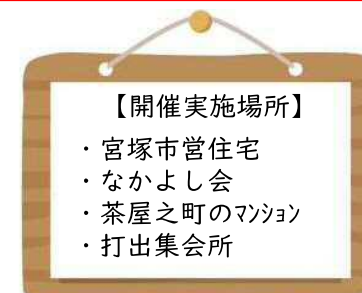


声かけていたところから、出張講座の問い合わせが増加！



令和4年度 精道高齢者生活支援センター イチオシ活動 2月報告

地域の小集団への介護予防啓発と自主グループ創設へ



① 自主グループの創設

『縁』前回の話し合いの結果…

- ・リーダーの役割の簡素化
- ・包括の関わり方

- ・簡素化方法の提案
- ・担い手の発掘や声掛け
- ・密な関わりから困った時の相談先へ

リーダーのやる気あり!!!

次年度のスケジュールやテーマも決定



② 出張講座（啓発活動）

実施していく中で…

◎良かった点

- ・心配な方の掘り起こし
- ・早めの関わりができる
- ・顔の見える関係



◎地域課題

生きがいデイや集会所など、集まる場所がない手薄のエリアが見えてきた

今後の動き

手薄のエリアを絞りつどい場込みの集まりを検討し、場所を増やしていく

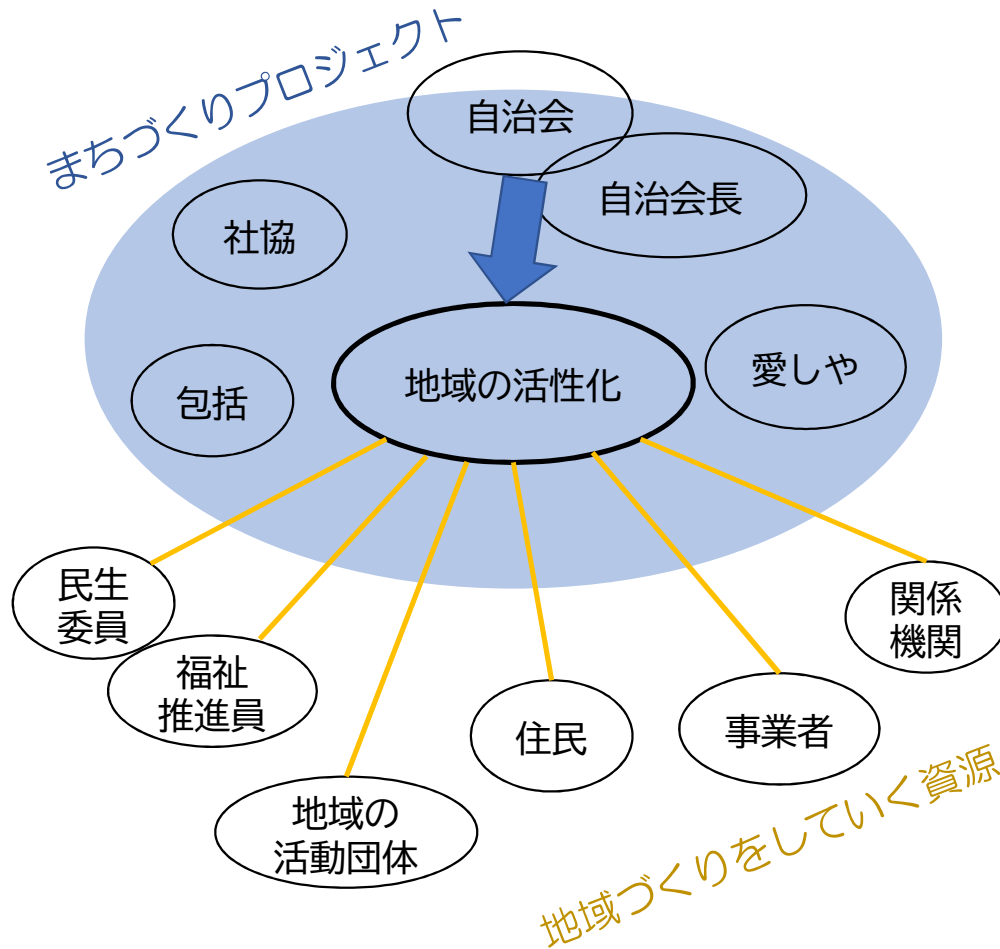
残された課題

- ・お金の問題
- ・場所の問題



潮見高齢者生活支援センター

潮見高齢者生活支援センター 『福祉のまちづくりプロジェクト』



- 地域の活性化・繋がりを中心を担ってきたある地域の自治会。しかし高齢化やコロナの影響を受け、これまでのような活動が難しくなった…

そんな時

「包括の役割を果たしてほしい」

と住民の声が



- 包括の狙いは『地域の活性化』の後押し。つながりが希薄となってしまった地域の活性化を支援したい。地域住民がこれまでやってこられたことに対して、エンパワメントアプローチを行う。

包括の気づき

- ①住民主体のプロジェクトの中で、黒子になることの難しさ
- ②地域の声の吸い上げが不十分

*その一方で

地域には新たな資源も生まれている！



またあした食堂

わかば子ども食堂




現在の活動

地域住民の声を聞くために

『芦屋浜魅力（ええとこ）探しアンケート』を行う。

狙いは…

- 住民や事業者に対し聞き取りを行い、**地域の再アセスメント**を行う。
- これまでの**ネットワークの再構築**
- 新たなネットワークの形成**



基幹的業務担当

精道高齢者生活支援センター・基幹的業務担当の活動(年度報告)～“省察的実践家”養成システムの構築プロセス

芦屋市内の居宅介護支援事業所

※ 令和4年10月現在（休止を除く）

事業所数	包括
28	4



ケアマネジメント事例検討会(1/13)の様子



対人援助基礎講座の様子(1/19)の様子

令和4年度 実施研修一覧

研修名	開催日	ケアマネ事業所数	参加人数	包括数	参加人数	合計事業所数	合計人数
介護予防ケアマネジメント研修①	5月24日（火）	14	45	4	10	18	55
介護予防ケアマネジメント研修②	11月18日（金）	16	28	4	7	20	35
介護予防ケアマネジメント研修③	2月15日（水）	11	17	4	7	15	24
対人援助基礎講座①	10月20日（木）	4	5	1	1	5	6
対人援助基礎講座②	11月17日（木）	4	5	1	1	5	6
対人援助基礎講座③	12月15日（木）	4	5	1	1	5	6
対人援助基礎講座④	1月19日（木）	4	5	0	0	4	5
対人援助基礎講座⑤	2月16日（木）	4	5	0	0	4	5
ケアマネジメント事例検討会①	6月16日（木）	0	0	0	0	0	0
ケアマネジメント事例検討会②	10月25日（火）	3	6	0	0	3	6
ケアマネジメント事例検討会③	1月13日（金）	5	9	0	0	5	9
ケアプラン作成研修①	9月13日（火）	13	23	4	5	17	28
ケアプラン作成研修②	10月12日（水）	9	19	2	2	11	21
高齢者虐待防止研修	1月20日（金）	14	27	4	7	18	34

主任介護支援専門員に期待される役割

①介護支援専門員への個別支援※施設・居住系サービスの介護支援専門員を含む

- ・ 介護支援専門員へのコーチング
- ・ 複雑な事例対応における指導・助言
- ・ 新規インテーク時等の同行訪問、サービス担当者会議の開催や支援や同席
- ・ スーパービジョン(個別事例に基づく地域ケア会議等)
- ・ 地域における社会資源(インフォーマルも含む)等に関する情報収集及び情報の提供
- ・ 介護支援専門員と地域との連携や行政への働きかけ等に関する支援

②事業所における人材育成と実施・支援

- ・ 職場内環境の調整・整備・研修会、勉強会、事例検討会の計画・実施
- ・ 研修における講師・ファシリテーター

③ネットワークづくり・社会資源の創出

- ・ 介護支援専門員と介護サービス事業者や医療機関とのネットワーク構築
- ・ 介護支援専門員と行政、地域包括支援センター、多職種とのネットワーク構築
- ・ 介護支援専門員及び主任介護支援専門員間のネットワークの参加・構築
- ・ 各地域包括支援センターの主任介護支援専門員との連携
- ・ 地域包括支援センター、介護サービス事業者、他の社会資源とのネットワーク構築
- ・ 地域課題の抽出(地域ケア会議開催の働きかけ)

平成25年度厚生労働省老健事業「主任介護支援専門員の研修制度に関する調査研究事業(一般社団法人日本介護支援専門員協会)」より抜粋

考察:主任介護支援専門員に期待される役割を踏まえ、今年度は左記のとおり研修を体系的に実施してきた。上記の赤字部分については、研修実施のプロセスにおいて、一定の成果を上げてきていると考える。令和5年度は基幹的業務担当の体制の変更、法定研修のカリキュラム変更も議論されており、どのようにして取組を継続するかが課題である。

精道高齢者生活支援センター・基幹的業務担当の活動(中間報告)～“省察的実践家”養成システムの構築プロセス～

実践プロセス

令和4年2月

4月

5月

6月

8月

9月

10月

模擬研修のふり返り、研修シラバスの検討を開始



研修の年間計画をリリース

デジタル化推進を意図して、案内はペーパーレスで実施

介護予防ケアマネジメント研修開催(参加者57名)

義務研修は参加者多数

ケアマネジメント事例検討会①、参加者ゼロで中止

QRコードのみを記載したチラシを配布するもまったく反応なし

事業者連絡会、友の会からメールとFaxで再度案内

申込者微増

ケアプラン研修リリース

申込者少数、包括申込者低迷

ケアプラン研修①開催

どちらも20人前後と参加者低迷

ケアプラン研修②開催

対人援助基礎講座開催(10/20)



ケアマネジメント事例検討会開催(10/25)



令和4年度 研修予定一覧

高齢者生活支援センター新任職員研修	6月21日(火)
介護予防ケアマネジメント研修①	5月24日(火)
介護予防ケアマネジメント研修②	11月18日(金)
介護予防ケアマネジメント研修③	2月15日(水)
対人援助基礎講座①	10月20日(木)
対人援助基礎講座②	11月17日(木)
対人援助基礎講座③	12月15日(木)
対人援助基礎講座④	1月19日(木)
対人援助基礎講座⑤	2月16日(木)
ケアマネジメント事例検討会①	6月16日(木)
ケアマネジメント事例検討会②	10月25日(火)
ケアマネジメント事例検討会③	1月13日(金)
ケアプラン作成研修①	9月13日(火)
ケアプラン作成研修②	10月12日(水)

【レビューと考察】

- 年度当初に年間計画を立案し、速やかに告知したが、ペーパーレス化を図ったために研修案内そのものが周知されていなかった。ケアマネジャーへの情報提供は紙ベースが無難。
- 概ね月1回ペースで研修を企画・開催してきたが、「義務研修」以外の研修受講希望者が低迷。
- ケアマネジャーの実務者の多くが主任ケアマネジャーとなり、資格更新のための法定研修は「主任介護支援専門員更新研修」となりつつある。兵庫県の主任介護支援専門員研修、主任介護支援専門員更新研修では、居宅サービス計画等を取り扱わないため、「ケアプラン研修」を開催したが、関心が低く、受講者低迷。
- コロナ禍で、職能団体主催の研修会、有志による勉強会などが相次いで中止され、「(実践者として)学び続けるモチベーション」が低下。

精道高齢者生活支援センター・基幹的業務担当の活動(中間報告)～“省察的実践家”養成システムの構築プロセス～

1 背景 ～相談援助職の役割と実践力向上の特質～

- ケアマネジャーや高齢者生活支援センター職員などの相談援助を基盤とする専門職は、利用者の特性や利用者を取り巻く環境の多様性、利用者との相談援助職との援助関係などが実践(仕事)の結果に大きく影響するため、“実践プロセス全体”を“総合的に評価”することが肝要
- 地域ケア会議や支援者会議では、検討事例の具体的な支援方法を学ぶことができる。また、地域で開催される研修会等では、設定されたテーマに沿った知識や技術を学ぶことはできる。しかし、相談援助実践は、“絶対的個性性”と“プロセス全体”が重視されるため、“ある事例”“特定の知識や技術”で習得したことを、そのまま用いても上手くいかないことが多く、“応用的実践力”を身につけることが必要
- この応用的実践力の習得に最も有効とされる学習法が、実践をふり返り、実践を評価・意味づけ・概念化し、新たな試みを明確化する「経験的学習サイクル」と言われるもの【図1】
- しかし、多くの相談援助職は、コロナ禍により「利用者との面接」や「ケア・カンファレンス」など対面の業務を省略することを余儀なくされ、さらには対面の会議や研修会、自主的な学習会の機会を奪われ、自身の実践を丁寧にふり返る機会を失っているが、“仕事”として成立しているように見受けられ、省察的実践家として存在することの意義を見失いかけている



図1: 経験的学習サイクル

2 目標

- 介護保険サービス事業所をはじめ、障がい者総合支援法事業所、医療機関、社会福祉協議会等において主に相談援助業務(対人援助業務)に従事する職員が、地域におけるチームケアの推進役(地域リーダー)、連携基盤の中心的役割、人材育成の担い手となるよう「人材育成システムの体系化」をめざす。

体系的研修プログラムの実施



地域リーダーとしての活動



3 具体的内容とこれまでの取組

- 基礎を積み上げながら、応用可能な実践力を身につけることを目標とし、最終的には地域のリーダー的存在となれる人材を継続的に育成するシステムをめざす。

対人援助基礎講座(平成26年度から実施)

- 全5回(2時間×4回+3時間=11時間)
- 対人援助職者が最低限おさえておくべき知識・技術、態度を体系的に網羅。

対人援助ステップアップ講座(平成27年度から実施)

- 全7回(3時間×7回=21時間)
- 「人と環境との相互関連性を理解するための知識・理論(例:個人や人間を理解するための基礎知識、システムに関する基礎知識等)」で構成。

芦屋市ケアマネジメント事例検討会(平成30年度から実施)

- 全6回開催(3時間×6回=18時間)
- 事例提供者に焦点を当て、支持的・教育的スーパービジョン機能を備えた「事例検討会」(芦屋市ケアマネジャー友の会、芦屋市介護サービス事業所連絡会協力)
- 主任CMをはじめステップ1、ステップ2の修了者が検討会のファシリテーターを担当。



図2: ケアマネジメント事例検討会

- 平成26年に基礎講座をスタートし、年度によっては複数コースを開催。多い時は、様々な分野から70人を超える専門職が参加者。
- 平成30年から、より実践的な学習機会として事例検討会を創設。外部講師を招くことなく、研修修了者や市内の主任ケアマネジャーが検討会のファシリテーターを担うシステムで運用を開始。

4 今年度の予定

- コロナ禍により研修開催を中止していたが、令和3年度は開催回数を減らして事例検討会を開催。【図2】
- 並行して主任ケアマネジャーや研修修了者を対象とした講師養成講座を開催(ケアマネ友の会主催)。主任ケアマネジャーの会で研修シラバスを作成。【図3】
- 令和4年10月からは主任ケアマネジャー講師による基礎講座開催



図3: 主任ケアマネジャーの会

令和4年度地域課題解決に向けたマスタープランに対する実践状況

2023年2月 基幹的業務担当作成

課題 (〇〇したい)	目標 (〇〇な状態にする)	具体的内容 (プログラム、取組内容)	担当	期限	現状(2月現在)
1 認知症の人や地域で孤立しがちな高齢者が、専門的支援を受けただけでなく、社会参加し続けられるようにしたい。	1 地域住民が高齢者生活支援センターをより身近に感じ、寄せられる相談が“より予防的”になる	① 4センターが活用している啓発ツールの共有化(クラウド上のデータ共有と相互活用システムの構築)	基幹的業務担当 4センター協働(社会福祉士部会)	2022/9/30	受託法人のセキュリティによりクラウドでのデータ共有は不可と判断
		② 高齢者生活支援センターの役割や相談した先のプロセスがわかる啓発ツールの作成	4センター協働(社会福祉士部会)	2023/3/31	「介護」や「高齢者」が前面に出ないおしゃれなセンター案内を作成し発行予定
		③ 高齢者が自らのフレイルに対する意識が高まるイベントの実施と啓発ツールの作成	4センター協働(保健師部会)	2023/3/31	各センターがそれぞれにフレイルの教室を実施し、そこでのデータをもとに啓発ツールの検討中
	2 高齢者生活支援センターの職員が、公的制度やサービス以外のニーズに対応できる相談援助実践力を身につける	高齢者生活支援センター新任職員研修会の開催	基幹的業務担当	2022/6/30	完了(6/21に研修開催)
3 地域住民が認知症の人や孤立しがちな高齢者を見つけたときに、専門機関へつなげるだけでなく、「(専門機関といっしょに)支える人」としてかわり続けてもらえるようになる	地域ケア個別会議(個別ケアミーティング)の開催	各支援センター	2023/3/31	虐待対応終了事例の地域ケア会議を開催実績はゼロであったため、主催者であるセンターの準備負担が無い地域ケア会議の枠組みを検討することとなる。(令和5年度活動)	
4 関心の高い住民が、認知症の人や家族のニーズ充足のための活動に参画できるようになる	① 認知症サポーターが活動できる場づくり	4センター協働(認知症地域支援推進員)	2023/3/31	認知症を考えるあしやの会の定期開催により、さまざまな地域活動者が参画。活動者同士の交流が活発化しており、「活動の場」の基礎ができてつある。	
	② 認知症の人や家族と活動者のマッチングのしくみづくり	4センター協働(認知症地域支援推進員) 地域支え合い推進員	2023/3/31		
2 高齢者や支援者がリハビリの必要性や適否を専門家に相談できるようにしたい	高齢者や家族、専門職がリハビリの必要性を、リハビリ専門職に相談できるようになる	① 支援者がリハビリ専門職に直接相談できる機会の開催	4センター協働(主任ケアマネジャー部会) 芦屋市PTOTST連絡会	2023/3/31	自立支援型地域ケア個別会議の一部をWeb上で公開し、その後に助言者と傍聴者による座談会を実施
		② 自立支援型地域ケア個別ケア会議の前後でのリハ職への“プチ相談会”の実施	4センター協働(主任ケアマネジャー部会) 芦屋市PTOTST連絡会	2023/3/31	